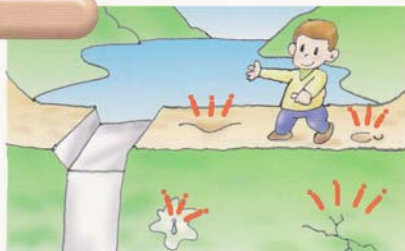


これだけはやる『ため池管理』

堤体の変形や漏水はありませんか

堤体に陥没やひびなどはありませんか。堤体から水がしみ出しているところや、歩くと湿って柔らかくなったところはありませんか。小さな水みちが決壊のもととなります。よく注意して見ておきましょう。



堤体の立ち木や雑草は刈払っておきましょう

堤体上に草木が繁っていると、漏水やひび割れなどの症状が発見しにくく、また草木の根によってできるすきまが漏水の原因となることがあります。



洪水吐をふさいでいるものはありませんか

洪水吐に土のうを積んだり、網などを張っていると大雨を排除できず、また流木などが引っかけりふさいでしまうこともあります。ため池は土でできているため、水が越えると決壊します。洪水吐をふさいでいるものは取り除いておきましょう。また洪水吐の周囲の崩れそうな部分は取り除いておきましょう。



こういうときは念入りに見廻りを!!

梅雨時期、台風時期前には危険な箇所がないかチェックしておきましょう。大雨の後や地震があった後は異常がないかチェックしましょう。



もし異常が見つかったら

まず取水栓を開け水位を下げる。
場合によってはポンプ等による排水も行う。
また穴などが開いている場合は土のうなどで応急処置をする。



速やかに役場や県地域事務所へ連絡し指示を受ける。



周囲の住民に呼びかけ安全な場所へ避難する。

危険を感じたら、無理をせず、すぐ避難しましょう。
いざと言う時のために避難場所等を決めておきましょう。

